

(案)

資料 3

【新図書館基本構想 目次】

1.	<u>はじめに</u>
2.	<u>構想策定の前提条件</u>
2-1.	<u>市立図書館の現状</u>
2-1-1.	<u>概要</u>
2-1-2.	<u>蔵書構成および蔵書数推移等</u>
2-1-3.	<u>蔵書場所</u>
2-1-4.	<u>利用状況</u>
2-1-5.	<u>定例行事の実施状況</u>
2-1-6.	<u>自動車文庫</u>
2-2.	<u>四日市市および整備予定周辺地域の概要</u>
2-2-1.	<u>四日市市の概要</u>
2-2-2.	<u>これまでの検討経緯、建設予定地等</u>
2-3.	<u>運営体制等</u>
2-3-1.	<u>運営体制等</u>
2-3-2.	<u>事業方針</u>
2-4.	<u>他都市等との比較</u>
2-4-1.	<u>類似規模都市との比較</u>
2-4-2.	<u>貸出密度上位 10%の市町村との比較</u>
3.	<u>市民ニーズ等の把握</u>
3-1.	<u>市民ニーズの把握</u>
3-1-1.	<u>市民全体ワークショップ</u>
3-1-2.	<u>中高生ワークショップ</u>
3-1-3.	<u>子育て中の方を対象としたワークショップ</u>
3-2.	<u>ボランティア団体および職員ニーズの把握</u>
3-2-1.	<u>ボランティア団体のニーズ把握</u>
3-2-2.	<u>職員ニーズ把握</u>
4.	<u>新図書館の目標像と理念</u>
4-1.	<u>新図書館整備に向けた課題</u>
4-1-1.	<u>資料面での課題</u>
4-1-2.	<u>運営・サービス面での課題</u>
4-1-3.	<u>施設・立地面での課題</u>
4-2.	<u>新図書館の目標像</u>
4-3.	<u>目標像実現のための新図書館の 3 つの理念</u>

5.	理念実現のための基本方針と重点サービス
5-1.	基本方針①
5-2.	基本方針②
5-3.	基本方針③
5-4.	基本方針④
5-5.	基本方針⑤
5-6.	基本方針⑥
5-7.	基本方針⑦
6.	目標収蔵冊数等の検討
7.	フロア構成、諸室構成等の提案
7-1.	フロア構成の提案
7-2.	諸室構成の提案
8.	管理運営手法の検討
8-1.	直営、業務委託等の比較検討
8-2.	開館時間と開館日等運営条件の検討
8-3.	必要人員の検討
8-4.	ICT の調査・検討
8-5.	移動図書館の検討

8. 管理運営手法の検討

8-1 直営、業務委託等の比較検討

平成 30 年策定の「中心市街地拠点施設整備基本計画」では、4つの機能(①滞在型図書館機能、②多世代交流・ワークショッスペース機能、③情報発信・コミュニケーション機能、④幅広い市民が気軽に立ち寄れる憩いの空間)の運營業務、施設管理業務、維持管理業務に対応する全館管理運営体制として、「直営(一部業務委託含む)」「直営(図書館)+民間(図書館の一部業務を含む施設全体)」「民間による包括的な運営」の3つの方向性が示されていた。

本計画では、図書館部分の民間参画の度合いおよび表 8-1 の比較を参考に以下の3つの方向性を設定する。なお、実際の運営形態は今後の進捗に応じて検討・決定する。

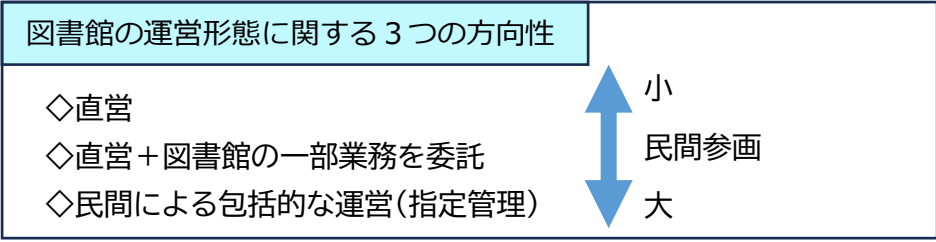


表 8-1 運営形態の比較

比較事項	直営	業務委託	指定管理
受託主体	—	制限なし ※議員、長について 禁止事項あり	民間事業者を含む 幅広い団体(個人は除く) 議会の決議を得て指定
法的性格	直営	私法上の契約関係	行政処分である指定により 公の施設の管理権限を委任
条例で規定する 内容	—	—	指定管理の指定の手続き、 指定管理者が行う管理の基 準および業務の範囲を規定
公施設の設置者 としての責任	地方公共団体		
メリット・期待され る効果等	- 行政の意図を反映させた 長期的視野によるサービ ス展開が容易 - 指揮系統の明確化による 迅速な判断等が可能 - 地域、学校、他部署等との 連携が容易	- 業務量とコストの調整が 容易 - 定型業務の委託により職 員を専門性の高い業務へ 従事させることが可能 - 管理運営経費、労務管理 の負担軽減	- 専門性の高い人材の確保 が容易 - 事業者の創意工夫による 住民サービスの向上 - 受託団体ユースケース共 有によるノウハウの展開 - 管理運営経費の抑制
デメリット・リスク 等	- 採用・育成・管理等費用が 割高 - 新たなサービス等のアイ デアが生まれにくい懸念 - ジョブローテーションによ る専門性を持たない職員 配属の懸念	- 施設内指揮系統の2重化 による非効率運営のおそ れ - 官製ワーキングプア化の 懸念	- 長期的サービスの継続性 の懸念 - 官製ワーキングプア化の 懸念 - 人件費相当額に対する消 費税賦課が生じる

※総務省 HP、自治体アウトソーシング研究会(編)『Q&A 自治体アウトソーシングの新段階』
自治体研究社、2007 等をもとに作成

8-2 開館時間と開館日等運営条件の検討

現図書館の開館時間は、火～金：9:30～19:00(一部は17:00まで)、土・日・祝日：9:30～17:00 であり、休館日は毎週月曜日、毎月第2・4火曜日、年末年始、特別整理期間である。

近年開館した駅前立地等の類似施設は、おおむね 19:00 以降も開館しており、フロアによって開館時間が異なる施設もある。

これらの事例を踏まえて、新図書館では利用者の利便性や満足度の向上を図り効果的なサービス提供を行うため開館時間を拡大する。開館時間の設定は、近隣商業施設の営業時間や学習塾利用の児童生徒等の活動等も考慮して検討する。

表 8-2 駅前立地等類似施設の開館状況

図書館名	開館年月	開館時間	休館日	立地
現 四日市 市立図書館	昭和 48 年 7 月	火～金 9:30～19:00 ※一部の部屋は 17:00 まで 土・日・祝 9:30～17:00	月曜日、第 2・4 火曜日、 特別整理期間、年末年始	
中央区立 京橋図書館	令和 4 年 12 月	月～土 9:00～21:00 日・祝 9:00～17:00	毎月第 3 木曜日、年末年始、特 別整理期間	駅前
豊橋市ま ちなか図書館	令和 3 年 11 月	9:00～21:00	毎月第 4 金曜日(祝日の場合は その前日)、年末年始、特別整理 期間	駅周辺
和歌山 市民図書館	令和 2 年 6 月 (一部業務は 令和元年 12 月)	9:00～21:00	年中無休	駅直結
安城市 図書情報館	平成 29 年 6 月	月・水～金 9:00～20:00 土・日・祝 9:00～18:00	火曜日(祝日は開館)、館内整理 日(毎月第 4 金曜日。ただし、 その日が休日の場合はその月 の末日)、特別図書整理日、年末 年始	駅周辺
あかし 市民図書館	平成 29 年 1 月	月～金 9:30～21:00 土・日・祝 9:30～19:00	毎月第 3 火曜日(祝・休日と重 なる時は開館して翌日休館)、 長期整理期間(4 月～6 月の間 において 10 日程度)、年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日)	駅前
大和市長 市立図書館	平成 28 年 11 月	3 階:子ども向けフロア 9:00～19:00 4・5 階:成人向けフロア 月～土 9:00～21:00 日・祝 9:00～20:00	年末年始(12 月 31 日・1 月 1 日)	駅周辺

※各館 HP より作成

8-3 必要人員の検討

新図書館で必要な人員は、延床面積、蔵書冊数、開館日数、開館時間等により変動すると考えられる。類似規模都市の事例を参考にしつつ分析を実施し、必要人員を **70～80 人** とした。

(1)算出方法

①分析対象の設定

中部・関西地方における人口 20 万～40 万人規模の類似規模自治体から、中央図書館 21 館の職員数や開館日数を考慮して、分析対象となる対象図書館を設定した。非常勤、臨時、委託・派遣職員数は、『日本の図書館 統計と名簿』記載の年間実働時間 1500 時間を 1 人として換算した数値を採用した。

新図書館では開館日数・開館時間の拡充が予定されている。仮に休館日を週1回、年末年始・特別整理日の 10 日間と設定すると、303 日(=365 日－(52 日+10 日))が開館日となることから、開館 300 日以上 of 図書館を分析対象とする。そのうち、富士市中央図書館、吹田市立図書館は開館時間が 8 時間と短いため除外し、7館(岡崎市立中央図書館、一宮市立中央図書館、和歌山市民図書館、あかし市民図書館、伊丹市立図書館、寝屋川市立中央図書館、加古川市立中央図書館)を分析対象とする。

表 8-3 類似規模自治体の中央図書館

 は分析対象とした図書館

図書館名		職員数	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	開館 日数	開館時間
岡崎市立中央図書館		92.7	7,895	965,629	305	9:00～21:00
一宮市立中央図書館		82	6,589	659,150	321	9:00～21:00
枚方市立中央図書館		81.4	9,302	527,418	292	9:30～19:00
富士市立中央図書館		67.3	7,526	791,373	312	9:00～17:00
和歌山市民図書館		66	7,597	503,757	365	9:00～21:00
春日井市図書館		54.8	4,983	793,075	251	9:00～20:00
高槻市立中央図書館		54.3	2,966	634,223	247	10:00～19:00
茨木市立中央図書館		53	7,008	911,347	264	9:30～20:00
あかし市民図書館		51.5	4,105	495,297	340	9:30～21:00
豊橋市中央図書館		40.5	5,655	695,029	286	9:30～19:00
伊丹市立図書館		40.2	6,194	401,365	307	9:30～20:00
寝屋川市立中央図書館		38	2,185	553,346	301	10:00～21:00
長野市立長野図書館		37	4,959	680,921	252	9:45～19:00
八尾市立八尾図書館		35.8	3,516	289,873	252	10:00～19:00
大津市立図書館		34	3,350	457,830	281	10:00～19:00
宝塚市立中央図書館		33.9	3,227	458,257	295	9:30～18:00
松本市中央図書館		33.4	4,832	655,075	288	9:30～19:00
奈良市立中央図書館		31.7	2,666	286,553	293	9:30～19:00
吹田市立中央図書館		28.9	3,453	289,170	343	10:00～18:00
津市津図書館		28.7	2,924	386,387	260	9:00～19:00
加古川市立中央図書館		28	2,419	335,181	325	10:00～20:00
参 考	現四日市市立図書館	39.9	4,147	428,311	247	9:30～19:00
	新四日市市立図書館	－	9,900	700,000	－	－

※ 『日本の図書館 統計と名簿 2022』をもとに作成。

②分析結果(単回帰)

上記で選定した7館を対象に、縦軸に蔵書冊数、横軸に職員数をプロットし、単回帰分析を行いデータポイントによくあてはまるよう直線を描いた。データにばらつきがみられることや対象館数が少ないため注意が必要であるものの、新図書館計画蔵書数である700,000冊に基づくと、

$$\text{必要人員数} = 0.0001 \times 700,000 + 0.1921 = 70.1921 \div 70$$

となり、約70名が必要職員数として想定される。

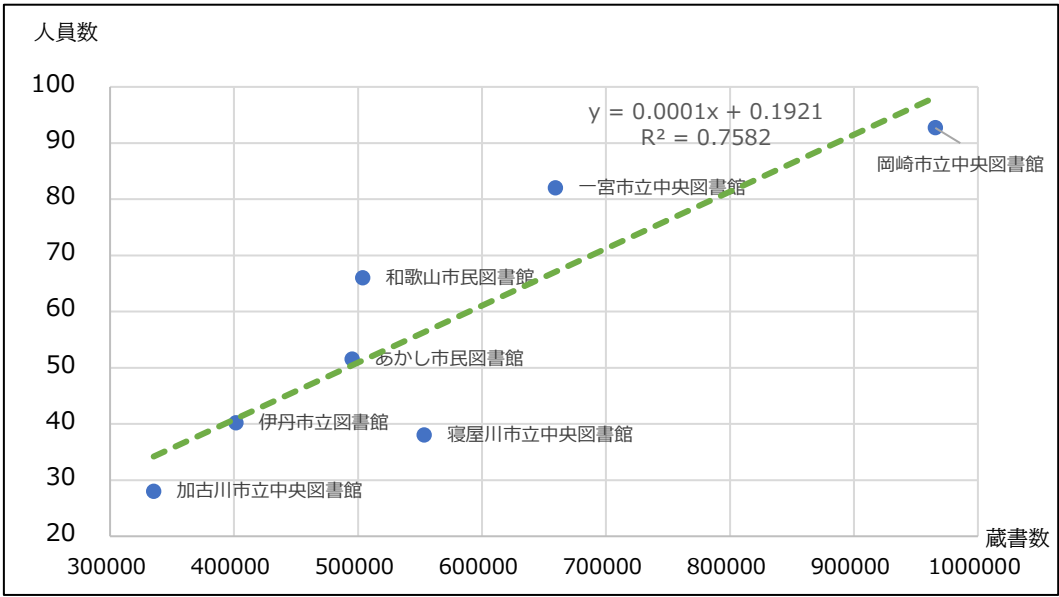


図 8-1 単回帰分析結果（蔵書数－必要人員数）

参考

(2)妥当性評価検証

①分析対象の設定

新図書館における人口一人当たりの蔵書数は2.28冊であり、前出の21自治体中、上位25パーセントに位置する。この閾値を上回る人口一人当たりの蔵書数を有する図書館として、6館（茨木市立中央図書館、富士市立中央図書館、松本市中央図書館、春日井市図書館、岡崎市立中央図書館、寝屋川市立図書館）を分析対象図書館とした。ただし、寝屋川市立図書館は延床面積が2,185㎡と、他の図書館に比較して小規模であることから、本分析から除外した。

今回の分析では、延床面積、蔵書冊数、開館日数、そして開館時間（分析では分単位で扱う）の4指標を扱うこととした。

表 8-4 重回帰分析対象館

図書館名	職員数 (人)	延床面積 (m ²)	蔵書冊数 (冊)	開館日数 (日)	開館時間
茨木市立中央図書館	53	7,008	911,347	264	9:30～20:00
富士市立中央図書館	67.3	7,526	791,373	312	9:00～17:00
松本市中央図書館	33.4	4,832	655,075	288	9:30～19:00
春日井市図書館	54.8	4,983	793,075	251	9:00～21:00
岡崎市立中央図書館	92.7	7,895	965,629	305	9:00～21:00

また、重回帰分析においては、延床面積と蔵書冊数のように、互いに強い関連性を持つ要素を同時に分析すると誤った結果が得られる可能性が知られているため、以下の2式を設定した。

式 i 延床面積(X1)・開館日数(X2)・開館時間(X3)

式 ii 蔵書冊数(X1)・開館日数(X2)・開館時間(X3)

新図書館の延床面積は、比較対象の図書館の中で最大である一方、南北に長い複層フロアからなることから、機械室エリア等の占める面積が他館より大きいと予想される。そのため、延床面積を分析対象とすると、結果が大きく歪む可能性があることが判明したため分析から除外し、より安定した予測を提供する式 ii を採用することとした。

以上の諸条件を踏まえて重回帰分析を行った結果、

$$\begin{aligned}
 Y(\text{必要人員数}) &= -193.25 + 0.000115X_1 + 0.443187X_2 + 0.053526X_3 \\
 &= -193.25 + 0.000115 \times 700,000 + 0.443187 \times 330 \\
 &\quad + 0.053526 \times 660 \\
 &= 68.8 \div 70
 \end{aligned}
 \qquad \text{※}R^2=0.86$$

となった。式の1行目は、延床面積が1m²増えるごとに、職員数が0.000115人増えることを意味している。

仮に新図書館の延床面積を 9,900 m²、蔵書冊数を700,000冊、開館日数を年間 330 日（休館日：月2回、年末年始、特別整理日5日程度を想定）、開館時間を 9:00-20:00(660 分)とした場合で試算すると約 70 という数値が得られ、(1)で行った分析結果と一致する。

(3)必要人員数の検討まとめ

新図書館で必要な人員の推定は、類似規模自治体の事例を踏まえ、かつ開館日数・開館時間の増加や、多層構造のため各階にフロアワーク担当の職員を配置する必要性があること等を鑑み、必要人員を 70～80 人とする。なお、この人員数についても、今後、直営・業務委託等の運営体制の検討や開館時間等の検討にあわせて精査していくものとする。

8-4 ICT の調査・検討

(1)調査の考え方

新図書館では、第5章で示したように「未来の技術革新にも対応し、人にやさしい ICT を効率的に活用する」ことを目指すため、各種 ICT 機器の導入や、今後の新技術への対応が望まれる。

図書館の DX(デジタルトランスフォーメーション)においては、利用者にとっての利便性向上と同時に、管理運営の効率化・省力化を実現するという利用者・職員双方にとって有益な技術や機器の選定と導入が重要である。この目的のもと、以下の視点に基づいて事例の調査と整理を実施した。

- i. 複数階を有する建築構造といった新図書館の諸条件に適した技術の選定
- ii. 技術が利用者向けなのか職員向けなのか、それがどのように「価値創出」に寄与するか、「課題解決」に貢献するかという視点から整理
- iii. 未来志向の事例を調査

(2)調査対象および結果

上記の考え方を踏まえ、①AI 組み込み型図書検索システム、②棚アンテナ、③ロボットシステム、④Wi-Fi インカム、⑤館内等可視化システム の5つのシステム・機材等を選定した。

項目		① AI 組み込み型図書検索システム		種類	検索ソフトウェア		
利用者向け	●	職員向け		価値創出	●	業務改善	
概要							
- 図書検索システムの機能向上のため、生成 AI 等の技術を組み込み活用することで、予期せぬ図書との出会いを実現							
- 自然言語でのやりとりが可能なほか、システム側が柔軟に利用者の要求を解釈し幅広く情報検索を実行。利用者の入力語を拡張した検索結果による図書提示等も可能に							
導入例等							
- 「蔵書検索サポーター（カーリル）」 - ChatGPT と既存の図書検索システムを組み合わせ、利用者による自然言語の問い合わせに対し、適切な図書検索用キーワードを提案				AIはこれからどうなるか AIの未来について検索しています から、AIの未来やAIの展望で検索すると見つかるかもしれません。 AIは技術の進歩により、より高度な自然言語処理や画像認識が可能になることが期待されています。さらに、自動運転やロボット技術の発展にも寄与し、社会全体の効率化や新たなサービスの創出が進むでしょう。			
- 「横浜市立図書館 蔵書探索 AI」 - 富士通と青山学院大学が共同で開発。 - 入力されたキーワードから連想し、対象キーワードを拡張、マッチ率の高い図書を提案							
例)「健康になれる本」→「良質な睡眠」「健康的な食事」「適度な運動」など							

※画像出典:株式会社カーリル HP

項目	② 棚アンテナ		種類	書架等の付加機能			
利用者向け	●	職員向け	●	価値創出	●	業務改善	●
概要							
- 図書管理を効率化するため、無線技術を利用した IC タグの検出装置。既存の書架に取り付け可能な後付型や書架と一体化した形がある。 - 各図書に貼付された IC タグデータを読み取り、書架内のアンテナで在架状況を追跡 - 貸出のみならず、館内利用のみの資料利用統計の取得も可能							
導入例等							
- 札幌市図書情報館 - 返却台に棚アンテナを活用し、館内利用状況を計測、特集棚等の効果測定にも利用 - 予約棚（※図書館における導入事例多数） - 利用者による予約図書の受け取りを効率化 - IC タグを通じて図書の追跡も容易になり、図書の紛失防止にも寄与						 棚アンテナ	

※画像出典：タカヤ株式会社 HP

項目	③ ロボットシステム		種類	業務代行			
利用者向け	●	職員向け	●	価値創出	●	業務改善	●
概要							
- 図書検索システムから出力されたバーコードを読み取ることで、ロボットが障害物を避けながら移動し、本の場所まで利用者を案内 - 書架案内のほかにも、従来は目視かハンディスキャナで行っていた不明資料探索等の蔵書点検作業補助や、予約図書を書架から確保するピッキング作業の補助など、職員の業務負担を軽減							
導入例等							
- 泉大津市図書館シープラ - 図書館業務のオートメーション化に関し、株式会社 HCI と事業連携協定を締結 - 中国の Pudu 社が開発したロボット、BellaBot を図書館業務に特化した形でカスタマイズ - ロボット技術の導入により、司書が本来取り組むべき業務に集中し、業務の効率化と利用者満足度の向上の実現を目指す - レストラン、物流倉庫等						 ロボット実機	

※画像出典：株式会社 HCI HP

項目	④ Wi-Fi インカム			種類	コミュニケーション支援		
利用者向け		職員向け	●	価値創出	●	業務改善	●
概要							
- Wi-Fi ネットワークを利用してデジタル通信を行うインカム。障害物により電波が届かないことが多いアナログ式無線機と比較し、ネットワークを介するため複層フロアに向くと同時にセキュリティの確保が容易 - スマートデバイス等、他の機器との連携で柔軟な機能拡張が可能							
導入例等							
- 安城市図書情報館アンフォーレ - フロアワークを行う職員がインカムを着用し、事務室にスピーカーを設置することで、複層フロアの業務状況を同時に把握、円滑な接遇等を実現 - 複数スタッフが同時に資料調査するなど、レファレンス業務の効率化により利用者の待ち時間を削減 - ホテル、高層アミューズメント施設等							

※画像出典:NTT テクノクロス株式会社 HP

項目	⑤ 館内等可視化システム			種類	人流最適化		
利用者向け	●	職員向け	●	価値創出	●	業務改善	
概要							
- カメラやセンサー等のデバイスで状況を取得し、店舗などの混雑状況等を管理者と訪問者の双方にリアルタイムで提供、スマホやデジタルサイネージ等に配信 - 待ち時間における利用者の回遊等を推進し、行列を緩和するとともに時間の有効活用を促進。また、管理者にとっては来客数の分析など施設の運営効率の向上を支援							
導入例等							
- 商業施設、催事・イベント、駐車場等 - 館内マップや店舗等の空き状況を組みあわせ利用敬遠の機会損失を防止するとともに、稼働率および利用者満足度を向上 - 「ながら待ち」を可能とさせることで、利用者の多様な体験を促進し、駅の待ち時間等の有効活用化							

※画像出典:株式会社バカン HP

(3)導入に係る考え方について

DX に際しては、単に作業を自動化し人員削減を行うのではなく、節約されるリソースや時間を図書館員の専門的な業務に活用し、これまで図書館を利用しなかった人々を呼び込むほか、デジタル化から取り残されがちな人々へのサービス向上等、新たな付加価値を生み出す方向が望まれる。また、ICT の発展は非常に速く継続的であり、新図書館開設までの期間により適した技術開発が行われている可能性が高いことから、導入する ICT 機器等については事業進捗に応じて今後も引き続き柔軟に検討する。

8-5 移動図書館の検討

(1)自動車文庫の位置付け

移動図書館(自動車文庫)の検討にあたり、前出の類似規模自治体の面積等を下表にまとめた。比較対象のうち、四日市市は面積および自動車文庫の保有数は中間程度である。一方、館数は2館と他の自治体と比較して少ない。加えて、四日市市には設置条例等で分室と位置づけられているものや、資料供給等サービス運営が図書館により管理されているサービスポイントが存在しない。そのため、市域全体へのサービスは移動図書館に比重が置かれているとともに、市域全体へのサービス向上には改善の余地があると考えられる。

表 8-5 類似規模自治体における自動車文庫台数等

No.	自治体名	面積 (km ²)	自動車文庫 (台)	図書館 (分館含)		サービスポイント		自動車文庫+館 +サービスポイント	
				館数	順位	件数	順位	合計	順位
1	四日市市	206.5	2	2	16	0	14	4	19
2	松本市	978.5	0	11	1	0	14	11	6
3	長野市	834.8	4	2	16	27	2	33	2
4	津市	711.2	0	9	2	2	11	11	6
5	大津市	464.5	1	4	7	0	14	5	14
6	岡崎市立	387.2	0	2	16	8	5	10	9
7	奈良市	276.9	2	3	14	0	14	5	14
8	豊橋市	262.0	0	4	7	74	1	78	1
9	富士市	245.0	1	4	7	4	9	9	11
10	和歌山市	208.9	2	2	16	0	14	4	19
11	加古川市	138.5	0	4	7	0	14	4	19
12	一宮市	113.8	1	4	7	0	14	5	14
13	高槻市	105.3	0	5	5	10	3	15	3
14	宝塚市	102.0	1	2	16	3	10	6	13
15	春日井市	92.8	0	2	16	9	4	11	6
16	茨木市	76.5	1	5	5	8	5	14	5
17	枚方市	65.1	0	8	3	7	7	15	3
18	明石市	49.4	2	2	16	0	14	4	19
19	八尾市	41.7	1	4	7	0	14	5	14
20	吹田市	36.1	0	8	3	2	11	10	9
21	伊丹市	25.0	0	4	7	1	13	5	14
22	寝屋川市	24.7	1	3	14	5	8	9	11

※『日本の図書館 統計と名簿 2022』より作成。採録基準により、四日市市内の図書館として「楠交流会館 図書室」「四日市公害と環境未来館」は含まれていない。

四日市市は臨海地域から市街地、里山まで多様な地勢を有しており、様々な人口分布が特徴である。現在の特定の地域や時間帯の巡回では、共働き世帯の増加、働き方の多様化による学童利用率の上昇などから、自動車文庫のサービス範囲が外れている可能性が高い。

それらへのサービス拡充を考慮した場合、自動車文庫は新しい分館を設けるよりも初期投資や維持費が少額であり、車種によっては高い機動性を発揮できるため、就学前施設、学童保育所、高齢者施設、イベント会場など、さまざまな場所でのサービス提供が可能である。一方、サービスポイントの整備は図書配送網の全面的策定作業やシステム導入業務が生じるため効率性に欠ける。

以上の状況を踏まえ、新館における来館型サービスでもハイブリッド化が目指されているように、非来館型サービスにおいても紙・電子でハイブリッド化されたサービス実現を目指す。そのために紙媒体・アウトリーチサービスの一角を構成するものとして自動車文庫の拡充を位置づける。

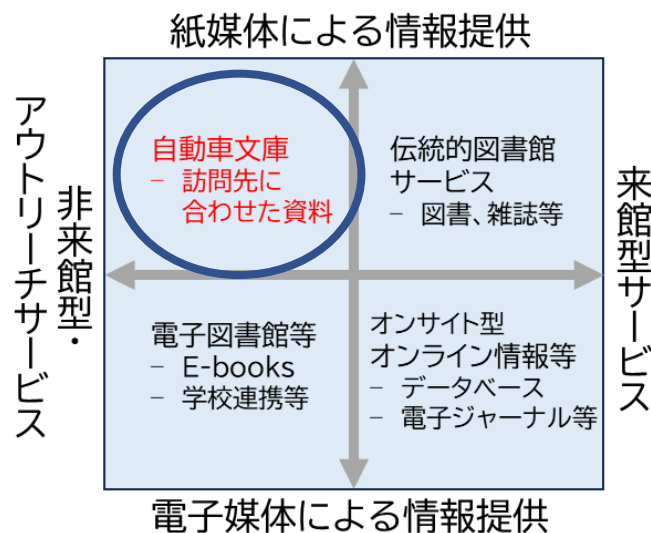


図 8-2 新図書館におけるサービスモデル及び自動車文庫の位置づけ

(2)停留所の検討

現図書館は2台の中型トラックによる自動車文庫を運行しており、その巡回地点(停留所)は 91 箇所である。しかし現行の自動車文庫はおよそ 15:00 前後に最終停留所を出発してしまうため、共働き世帯や小学生の利用が困難である。また、停留所数は多いものの、高齢者施設に入居している歩行困難な高齢者等にとって利用が難しい。

今後、ますますの少子高齢化社会が進むことや、社会的に弱い立場にある人々をも含め全ての人々を社会の一員として取り残さず取り込み支え合う「ソーシャル・インクルージョン」の実現が望まれていることを踏まえ、就学前施設等や高齢者施設等へのサービス展開が望まれる。なお、それらの施設等との調整が必要であるため、今後検討を行った上で自動車文庫サービス網を構築する。

表 8-6 自動車文庫サービス対象候補例

項目	市内設置数
自動車文庫停留所	91
幼稚園等	108
小学校	32
中学校	22
学童保育	72
高齢者施設	35
計	360

※四日市市 HP、三重県 HP「介護保険事業者・関係施設一覧」から作成。

「高齢者施設」は地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護、地域密着型老人介護福祉施設入所者生活介護、複合型サービスを合算

また上記施設以外にも、図書館の潜在的利用者の掘り起こしを目的とし、自動車文庫の機動力を活かして、こどもまつり、萬古まつり、四日市 JAZZ FESTIVAL 等、各種イベントへの出展の実施も検討する。

(3)車両の検討

自動車文庫による市域全体へのよりきめ細やかなサービス拡充を目指すために車両の検討を実施する。現行運用のトラックタイプの自動車文庫には老朽化が見られるため新型車両の導入が求められる一方、従来の車両タイプを踏襲した導入では、目標とする市域へのきめ細やかなサービス拡充の実現は難しいことが予想される。

現行ではバス・トラックタイプの自動車文庫 2 台で停留所 91 箇所を巡回していたが、今後、訪問可能性のある施設は 270 箇所にのぼる。また、自動車文庫の扱う自動車文庫用図書も、新図書館では現在の 2 倍の 6 万冊を目指している。停留所の統合や訪問先の精査は今後実施するとしても、図書数および訪問先数が大幅に増加することが容易に予想される。

加えて学童保育施設と高齢者施設では必要とされる本の種類が異なるとともに、大型車両では訪問できない立地場所も見受けられるため、新たな車両を用意することが望ましい。

そこで、車両のタイプとその特徴について調査した。評価は、導入による大きな利点を◎、利点を○、課題を△で示し、評価を行った。

表 8-7 自動車文庫種別特性等

	バス・トラック (サイズ大)	普通自動車 (バンタイプ) (サイズ中)	軽トラック (サイズ小)
車両タイプ	 四日市市立図書館：みなと号 ※出典：四日市市保々小学校 HP	 NPO 法人『そらまめの会』(指宿市) ブックカフェ号そらま MEN ※出典：肝付町観光協会 HP	 東近江市立図書館：いきいき本の元気便 ※出典：東近江市立図書館 HP
積載量・車両特性	積載量 ◎ 約 3,000 冊	○ 約 500~1,200 冊	△ 約 500 冊 用途に応じて図書の積み下ろし作業等が発生
	運転条件等 △平成 29 年(2017)3 月 12 日以降に取得した普通免許では最大積載量 2 トン以上の車両は運転不可	○普通免許で運転可能だが比較的車体が大きく、運転にある程度の慣れと技術が必要	◎ 普通免許で運転可であり、車幅感覚等が掴みやすく運転が容易
コスト	イニシャルコスト △車体本体価格が高額	○車体本体価格が比較的廉価	◎ 車両本体価格が最も廉価
	ランニングコスト △メンテナンスコスト、燃料費等が高額	○メンテナンスコスト、燃費等が比較的廉価	◎ メンテナンスコスト、燃費等が廉価
機動性・拡張性	多様な利用者ニーズへの対応 ◎ 書架スペースを広く展開可能なため、多人数の利用者対応が容易	○スライドドア・リアゲートからアクセスする場合は、多人数の利用者対応が困難。ウイング形式での車両製作も可能。	△ウイング形式だが、積載量が小さく、大量貸出や他用途への転用には不向き
	巡回等の機動性 ○停留所の定点巡回に向く一方、小回りに欠け、停車できる場所が限定される	◎ 機動力に富み、従来の定点巡回のほか、高齢者施設等に展開可能	◎ 機動力に富み、子育て支援施設、学校、学童保育所等のほか、地域イベント等多様な展開が可能。
	図書運搬以外の利用可能性 ○図書以外の荷物等もある程度運搬可能	◎ 脱着式キャビネット装備車両であれば災害時の緊急物資輸送車等へ転用可能	△他用途への転換は困難

(4)追加車両選定の考え方

サービス拡充という視点による追加車両選定においては軽トラックタイプが最も適切である。なお、自動車文庫の停留所ネットワークの維持も重要な要素であることを考慮する必要がある、現在のバス・トラックタイプ 2 台体制の自動車文庫のうち1台を定期巡回用に確保する。残りの 1 台の車両については、定期巡回とともに、高齢者施設、学校、子育て支援施設へのサービス網の拡大を念頭に、普通免許で運転可能であり、図書の積替え作業の省力化等の業務効率化も必要であることから、複数台の代替車両を検討する。